

# “Heart to Heart”

第14巻 第1号 (No.41)

発行日 2019年7月1日

心から心へ わちあう あたたかさ

武蔵野東教育センター所長  
計野浩一郎

## 学びの環境を整える

目次:	
学びの環境を整える	1
療育プログラムのようす	2/3
コラム:脳発達と環境	4
ご案内	4

最近の傾向として、子どもの自立を視野に入れて、適度な負荷をかけることや一つ一つのことを徹底指導し習得させるということをあまりしない傾向が強くなってきていると思われる場面によく出会います。これだけ説明したのだから伝わっているだろう。だいたいここまでできていればあとは大丈夫だろう。また、無理をさせたら心に傷がついてしまう。「君が大変なのは分かっているよ。無理をすることはないよ。」と言って終わっているというのが、残念ながら現状なのです。

子どもたちは、なぜキレイに書けないのか、なぜスラスラ読めないのか、なぜみんながじっとしているときにじっとできないのか、それは「分からない」からです。また、読むことや書くことがしんどいなど、自分は何ができないかということは分かっています。ただ、どうしたらよいか分からない。だからこそ、分からないことやどうしたらよいかを教える教育が必要であるにもかかわらず、「無理をすることはないよ。」という言葉で終わってしまっているように感じます。

社会に出て自立するためには、得意なことを伸ばしつつ、しんどいと思っていることに対しても最低限でも苦手意識はしっかりクリアできるようにしなければならないと思います。字が書けないから無理しなくてもよい。人とうまく話せないのはあなたの個性だから無理をする必要はない。そんな子ども時代を過ごしてしまった時、いざ社会に出て自立しようとして困るのは誰よりも本人だということを、大人はもっと自覚する必要があります。

子どもの時に最低でもできなければいけない基礎学力の部分ができなかったり、個別で指導されていった結果、集団の場であるクラスの中での振る舞いがわからず排除されてしまったり、特別な子どもだとラベリングをされてしまったら、社会に適応できずに結果的に不利益を被るのは子どもたちです。一人ひとり違いがあるということを前提に環境を整えて、分かることがうれしいと思えるまで反復練習していくことは大切だと思います。

ある保護者の方が「1回で学んでくれる子ではないので、数十回の反復練習をし、定期的に復習もしてきました」と話していました。教育センターの提供するプログラムや教材は、その数十回の練習を無理なく進めていけるように日々工夫しています。そのために一人ひとりの教育的ニーズをしっかりと把握し、最大限の効果が得られるように、ニーズに応じた指導を個別と集団で目的を明確にしながら行うようにしています。もちろん本人も努力しなければいけないのも事実です。個人の因子があるろうとも環境因子を整えることはもっと大事だと国連の障害者権利条約(社会モデル)や世界保健機構の生活機能分類(ICF)などに書かれています。

全ての子どもが自分への理解が進められるように、悪いところできないところばかりではなく、得意なところ上手なところも含めたバランスのよい自己理解を進められるように、そういう指導を保護者の方々と共にしっかり行っていきたいと思っています。これからもご協力よろしくお願ひします。





## 療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

**音楽教室** 今年から開設された小5から高校生までのプログラムです。子どもたちは、歌唱やリズム、器楽に音楽鑑賞といった盛りだくさんな活動に取り組んでいますが、中でもギター練習は子どもたちが一番楽しみにしている活動です。弦を押さえたり、かき鳴らしたりする技術も回毎に上達が見られます。音楽をより身近に感じ、余暇活動の1つとして長く楽しんでもらえるよう導いていきたいと思います。(平瀬戸)



「ギター楽しい！」

**幼児絵画造形教室** 7月の廃品製作に向けて、セロテープの使い方を練習しました。まず、どこにテープを貼れば2つの物がつながるかが分かるように、透明よりも分かりやすいビニールテープを使って牛乳パックとカップをつなげました。かっこいいカメラができると、早速探検へ。上級生の教室の前で「はい！チーズ！」と誰もが名カメラマンになって撮影を楽しみました。(本田)



はい、チーズ！

**リズム教室** 幼児は、歌に合わせて指定された色のカラーボードをタッチしたり、「ちょうちょ」や「かえる」になって曲に合わせて体を動かしたりしました。「即時反応」の練習として、音楽が止まったらすぐにワニやクマの動きをやめて指示された色のマットに乗る練習をしました。小学生は、音楽が停止したら即座に鳴らしていたシェーカーの音を止める練習をしています。音やリズムに耳を傾けてすぐに反応できるようにしていきたいと思います。(高橋)



次は何色かな？

**体育教室** 小学生は、鉄棒で『前まわり降り』の練習をしました。この課題では、肘を伸ばし、上体を少し前に倒して支持姿勢をとること、順手握りを維持しながら腹筋を使ってゆっくりと回転することなどを指導のポイントにしています。子どもたちは、体を回転させるという日常ではなかなか得られない感覚を楽しみながら経験することができました。(鈴木)



肘をのばして！

**言語プログラム** 質問をよく聞いて答えることを目標に、絵を見て「名前」や「色」を答えることに取り組んでいます。初めは、形が切り抜かれた絵と色を組み合わせた「赤いコップ」などができるカードを使います。絵を見て名前を答え、色を見て色名を答えてから、カードを組み合わせた後に、「これは何(何色)ですか？」と質問をします。回数を重ねると質問を聞いた後に少し考えてから答えることが増えてきています。(計野ち)



質問に答えてね

**ダンス教室** ダンス教室のスキップの目標は、足の付け根の高さまで膝を上げ、リズムに合わせて行えるようにすることです。練習を重ねていくうちに、膝をしっかり上げることが意識できるようになりました。更に、回転を加えたスキップターンにチャレンジしていますが、床に置いたマーカーを軸にした練習を行うと、皆スキップを持続しながら回転できるようになってきました。(新堂)



スキップターンにチャレンジ！

**コンピュータ教室** プログラムの初めに「10分間チャレンジ」を毎回実施しています。これは10分間でできるだけ多くの文字を入力する課題で、コンピュータの操作において最も重要といえるタイピングスキルを向上させるねらいがあります。何年も継続して受講している生徒は年々記録を更新し、最高は700文字を超えました。それぞれの自己新記録を目指して、練習に励んでいます。(白井)



10分間チャレンジ

**SST教室** 5～6年生のクラスでは、『質問する役』と『答える役』に分かれて会話を続ける練習をしています。質問する役の子はカードをめくって、書かれている質問をします。相手に答えてもらった後、『わかったよ』というメッセージを相手に伝えるために、必ず「へえ～」「そうなんだ」「わかりました」などの言葉を返すことをポイントにして練習しています。(大澤)



質問カードを使って会話を続ける



## 【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

**幼児** 6月は「梅雨」をテーマにした製作を楽しみました。同じ「あじさい」がテーマでも、親子教室はクレヨン、年少さんは糊、年中さんははさみと糊を使ってと学年によって取り組み方を変えています。また、年長さんは「かえる」や「かたつむり」の模写やクレヨンでの着色を行いました。今年の梅雨は長めとか。そろそろお日様が恋しいですね。(本田)



指先でそーっとね!

**1年生** 音楽の授業で「鍵盤ハーモニカ」に挑戦しました。鍵盤表を見ながら伴奏にあわせ音階を吹く練習をしました。皆、一生懸命です。「上手にできた!!」「先生、楽しい!!」子どもたちは口々に感想を言っていました。これからも、いろいろなことに挑戦し大きく成長して欲しいと思います。(宮下)



いろいろな音があるね

**2年生** 国語で「スイミー」を学習しています。導入では、海中のイメージを伝えるために、サンゴ礁、クラゲ、いそぎんちゃくなどの画像を提示しました。また、図工の時間を使って、粘土で「スイミー」に登場するまぐろを作りました。まぐろのギザギザした歯は、粘土ベラを使って細かく線を入れました。完成した作品はどこか愛嬌のあるものから口を大きく開けて怖そうなものまで様々です。この先もイメージを膨らませながら作品を楽しめる工夫をしていきます。(諸橋)



小魚を食べちゃうぞー!



オーバーハンドスローの練習

**3年生** 体育ではテニスボールを使って、オーバーハンドスローでの投球を練習しています。目標は、「より遠くに投げられるようになること」と「狙った場所に投げられるようになること」です。子ども達は課題に応じて、的を狙って投げる練習や立てられた壁を越えるように投げる練習をして、目標の達成を目指しています。(猪野)



垂直な線

**4年生** 算数で「いろいろな四角形」を学びました。その中で垂直な線や平行な線を書く練習をしています。三角定規の直角を探してから2つの三角定規を組み合わせるのがポイントです。最初は正しく組み合わせるのは難しいようですが、練習を重ねるうちにだんだん覚えてきます。三角定規の直角の部分にペンやシールで印を付けるとわかりやすいようです。(久留)



カエル上手に切れたよ

**5年生** 図工では「切り絵」を取り入れています。今までに「小池のカエル」「海の生き物(カニ)」を作成しました。折り紙や色画用紙を半分に折り、左右対称のカエルやカニを切り取ります。細かいラインに気をつけながら、ハサミを上手に使うって作成していきます。今後いろいろな課題に取り組み、より細かい作業を短時間で完成できるようにしていきたいです。(藤本)

**6年生** 算数で円の面積を求める学習をしています。まずは半径が示されている円の面積を求める練習をし、できるようになったら提示されている直径を手がかりに円の半径を求めてから公式にあてはめて答えを求める練習へと発展させていきます。小数を含んだ計算になるので、苦戦している子どももいますが、みんな真剣に取り組んでいます。今後は、2分の1や4分の1の大きさの円に挑戦します。(宮川)



直径から円を求める

**中学生** 体育でバスケットボールに取り組んでいます。ボールハンドリングやその場での両手、片手ドリブル、友だちとペアになってチェストパスでのパス交換、天気の良い日には校庭にあるゴールを使ってシュート練習をしています。シュートは回を重ねるごとに上達し、全員が決められるようになりました。今後も更なるスキルアップを目指し、練習を重ねていきます。(宮川)

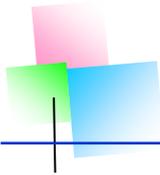


チェストパスの練習

**ラーニングプログラム** 今年度は、年中さんから高校3年生までの134人がラーニングプログラムを受講しています。個々の子どもたちの学習進度やそれぞれの特性に配慮しながら、プリント学習の他に、タブレット端末・カード・マグネットボード・パソコン・手の巧緻性を高める教材など様々な教具を使用して学習を進めています。(宮下)



指をたくさん使ってみよう



コラム 障害児教育について (4)

脳の発達と環境

先日(5月25・26日)学会(第37回日本生理心理学会大会)を文教大学で開催しました。招待講演ではイギリスから千住淳さんを迎え「社会脳発達の多様性と自閉症スペクトラム」と題して講演していただきました。社会脳とは表情認知やコミュニケーションを担う脳の働きのことで、人との相互作用が苦手な自閉症のメカニズム研究がその出発点の一つとなっています。千住さんは今や社会脳研究の世界的トップランナーの一人ですが、そもそもは武蔵野東学園の子どもたちを対象として卒業論文で視線認知研究を行ったことが始まりです。当コラムその2で記したように、当時私も武蔵野東の子たちを対象に脳波記録を行っていたことが千住さんとの出会いの始まりでした。千住さんの研究は東大を中心とする武蔵野東プロジェクト(国際共同研究等)として、現在に至るまで活発に情報発信を行っています。

私はその後医科大勤務を経て

現任校に移り、障害児教育に携わった経験を活かし不登校、いじめ、教育相談など発達臨床心理学へと研究の幅を広げました。ただし子どものコミュニケーション能力形成に関心の焦点があることは変わりません。

千住さんの講演は、まなざし(視線)の利用特性に関する経験の効果の、神経過程を含めた紹介でした。自閉症に限らず、コミュニケーション能力形成における環境の重要性を説く、イギリス経験論の現在を垣間見た思いです。

加えて学会の特別講演では神経代謝研究の第一人者でもある私の友人に、ADHDの動物モデルからその発症メカニズムに迫っていただきました。綿密な実験により免疫分子がシナプス剪定障害に関与する可能性が紹介されました。いずれの研究も脳の発達に環境が大きく関与することを示しています。

つい数日前児童福祉法が国会

谷口 清 (文教大学教授)

で改訂されましたが、その端緒となった虐待死などについて、私は育児の貧困化、虐待の世代間連鎖などアタッチメント(愛着)の問題、あるいは育児文化の継承の問題とみて憂慮しています。両親が仕事に時間を奪われ、育児・生活を楽しめない、群れて遊ぶ子どもの時間が失われた、などは全てコミュニケーション能力を担う子どもの脳の神経回路形成の貧弱化に結び付きます。特に乳幼児期早期の親子の絆の形成を保障する育児環境の確保は、社会が直面する焦眉の課題です。コラムを終えるにあたって、自閉症の子を持つ親への支援として始まった武蔵野東の足跡に敬意を表するとともに、親たちを孤立させず、楽しい子育てを支援する動きがますます広がってくれることを願っています。微力ながら私も引き続き力を尽くします。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

保護者勉強会のご案内

センターのスタッフがお話しさせていただきます。

- 【第2回】 9月19日(木) 10時~12時  
「書字につながる運筆の課題(せんのおけいこなど)」  
久留 沙織
- 「親と子どものためのストレスマネジメント  
~自律訓練法の実際~」 諸橋 茜
- 「加減算学習 ~計算の基礎から筆算まで~」  
藤本 省司
- 【第3回】 1月30日(木) 10時~12時  
「家庭でできるリズムあそびリズム運動」  
高橋 奈都子
- 「縄跳びへつながる肩・手首の旋回運動」  
鈴木 裕磨

※実技講習が含まれますので、動きやすい服装と上履きで参加してください。

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町 2-1-10  
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595  
Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページをご覧ください  
<http://www.musashino-higashi.org>



セミナーのご案内

- 【第2回】 11月28日(木) 10時~12時  
「学校生活に必要な“見る力”」  
木部 俊宏 (オプトメトリー修士)
- 【第3回】 2月21日(金) 10時~12時  
「脳と発達の多様性とコミュニケーション支援」  
藤野 博 (東京学芸大学教職大学院教授)